

教師用 指導案

1. テーマ・授業名

テーマ1 パラリンピックの価値

授 業1 「パラリンピックってなんだろう？」

2. 授業の目標

- ・パラリンピックの特徴や発展について学び、諦めないことの大切さや、限界に挑戦することの尊さ、できないと思い込んでいたことをできるに変えるための工夫の仕方などを知る。
- ・東京大会を経て、改めてパラリンピックを振り返るとともに、「今後もパラリンピックを見たい！」「パラリンピックについてもっと学びたい！」「自分も関わりたい！」という気持ちになる。
- ・パラリンピックでは障害のあるアスリートがスポーツに参画するために、ルールや用具、サポートの仕方が工夫されている具体例を知り、身近にある困りごとの解決への応用を考えるきっかけとなる。

3. 指導上の留意点、工夫点

- ・パラリンピックについてあまり知らないことを前提の展開をしている。クラスの状態に合わせて、導入の方法を変えるとよい。
- ・教師の一方的な説明にならないように、児童の気づきを大切にし、より興味を持てるような展開（クイズや映像の使用）に留意する。
- ・創意工夫したり諦めない気持ちにさせたりすることは、パラリンピアンに限ったことでなく、自分たちも同じと気づかせたい。

4. 準備物

- ・授業用シート (1-1)
- ・教師用授業ガイド (1-1)
- ・児童用ワークシート (1-1)
- ・世界地図など各国の国旗がわかるもの
- ・映像資料：東京 2020 ダイジェスト「Tokyo 2020's Most Emotional Moments」



〈展開案〉※【 】内は経過時間

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
導入 (12分) 【12分】 目安 映像：3分半 個人ワーク：3分 発表：5分	(1) 東京パラリンピックの映像を見せ、映像から「楽しそう」「おもしろそう」などの感想や「何だろう?」という疑問を引き出す。 ・映像を見せる ・ワークシートを配布し、感想を記入させる (2) 児童の発表から、これからパラリンピックについて学ぼうという導入を行う。 ・発表させる ・必要に応じて板書する	(1) 導入は以下に、2つの例を示すが、クラスのそれまでの学習経験、パラリンピックの知識の程度によって変えてよい。 導入① あえてスライド1は飛ばして、いきなり映像を見せ「この映像は何?」と聞く展開をしてもよい。オリンピックに続いて行われたパラリンピックの映像であり、オリンピックと同様に速かったり、かっこよかったりすることを伝え、これからの学習への興味関心を引き出す。 導入② 「パラリンピックについて知っていることは?」と挙手で発表させ、パラリンピックについて学ぶという姿勢をつくる。 ・導入②の場合は、児童の発表内容がよければ、大いにほめる。 (2) ・教師は板書してもしなくてもどちらでもよい。 ・発表は、様々なパラリンピックへの気持ちを取り上げたい。机間巡視をし、特に「かっこいい」「わくわくした」といった意見を持った児童に発表させることで、パラリンピック学習により意欲的になるようにしたい。 ※障害に関するネガティブなコメント（「足がなくてかわいそう」「手がなくて怖い」「気持ち悪い」など）も否定せずいったん受け止め、映像や写真などから、とても速い、力強いなど、選手の素晴らしいところに着目するように促す。 →選手の表情を見てみよう。 →泳ぎの速さはどうだった?	・授業用シート (1-1) ・教師用授業ガイド (1-1) ・児童用ワークシート (1-1-P1) ・映像資料：東京 2020 ダイジェスト
展開 (18分) 【30分】 目安 クイズ5問まで：13分 パラリンピックの意義、歴史などのまとめ～最後：5分	パラリンピック大会の意義やどのように発展してきたかを、クイズから興味を持たせ、理解させる。 ・ワークシートへの記入 ・発表と答え合わせ	・クイズの解答を、1問1問ワークシートに書くか書かないかはどちらでもよい。3択問題などは、すぐ挙手させてテンポよく進めてもよい。 ・どのクイズも、「なんだと思う?」と聞き、写真をよく見せ、既知の学習事項なども取りあげ児童の解答への思考を促す。 ・ヒントをうまく出すことで、興味が持てるようにする。	・授業用シート (1-1) ・教師用授業ガイド (1-1) ・児童用ワークシート (1-1-P2.3) 【教師参照】 ・教師用ハンドブック P5～14

時間	学習活動 ○児童の活動 (引き出したい児童の声)	指導上の留意点・配慮事項 ○教師の活動 (声かけ例)	準備物／教師参照物
		<ul style="list-style-type: none"> ・ +アルファ情報を伝えるときも、単に伝えるのではなく、「どう使うの?」「何のためにだと思う?」など、児童を巻き込み、もっと調べたい、知りたいという気持ちにさせる。 ・ 教師が知らないことがあっても、「先生も知りたいから、一緒に調べていこう」と一緒に学んでいく姿勢を見せることで、答えは教師が教えてくれるものではなく、自分たちが調べたり考えたりして導き出すものだとということに気づかせる。 	
振り返り (10分) 【40分】	今日思ったことを児童用ワークシートに書かせ、振り返らせる。 ・ワークシートへの記入 (・まわりとの意見交換)	<ul style="list-style-type: none"> ・ うまく書けていない児童は、今日驚いたこと、知らなかったことなどを聞き出して、書けるようにフォローする。 ・ まとめの時間は、全員が発表できるわけではないので、記入の進み具合によって、隣同士やグループなどで、意見交換の時間をとってよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業用シート (1-1) ・ 教師用授業ガイド (1-1) ・ 児童用ワークシート (1-1-P4)
まとめ (5分) 【45分】 発表：3分 まとめ：2分	数人に振り返りを発表させた後、まとめを行う。パラリンピックについてこれから学んでいこうという気持ちにさせる。 ・発表させる ・まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机間巡視をし、特に「これからもパラリンピックを応援したい」「もっと調べてみたい」といった意見を持った児童に発表させることで、パラリンピック学習により意欲的になるようにしたい。 ・ 時間があれば、最後にもう一度今日学習した内容を振り返り発表させることで、今後の学習意欲につなぐ。 	